第３章　流域の社会状況

肝属川流域は、鹿児島県の南東部、大隅半島の中央に位置し、鹿屋市、垂水市、肝付町、東串良町、大崎町、錦江町の２市４町からなり、約 11 万 6 千人の人々が暮らしている。流域内の土地利用は、山地が約 32%、水田・畑地等の農地が約 50%、宅地等の市街地が約 13%となっている。

３－１　土地利用

シラス台地では畑作が主体であり、水田は肝属川沿いに発達する沖積平野に分布し、鹿児島県下随一の沃野で穀倉地帯となっている。また、宅地面積は年々増加傾向にあり、土地利用経年変化図で見ると、鹿屋市を始め、東串良町、肝付町の中心部並びに、主要道路沿いに集中している。

表 3 - 1　　土地利用の経年変化表(ha)

(ha)

	昭和40年	昭和50年	平成元年	平成7年	平成12年	平成16年
田	4,512	4,303	4,069	3,972	3,859	3,833
畑	13,221	12,309	11,140	10,785	10,265	10,045
宅地	1,375	1,965	2,790	3,237	3,307	3,460

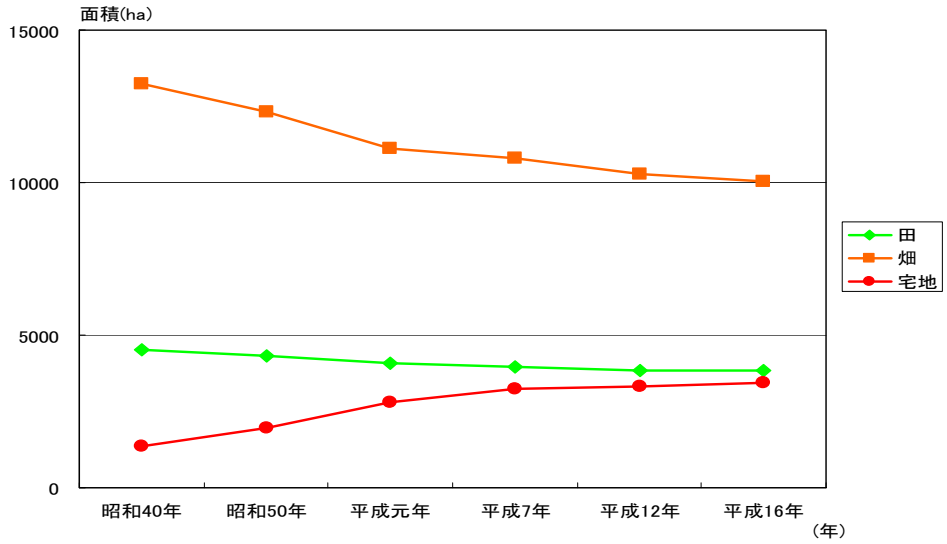
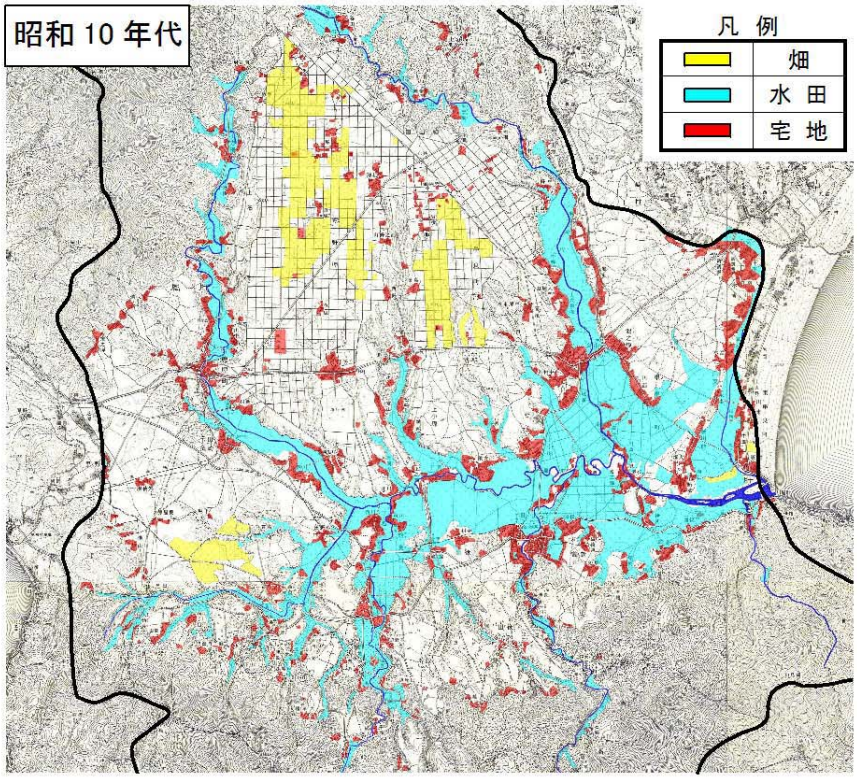


図 3 - 1　　土地利用経年変化図



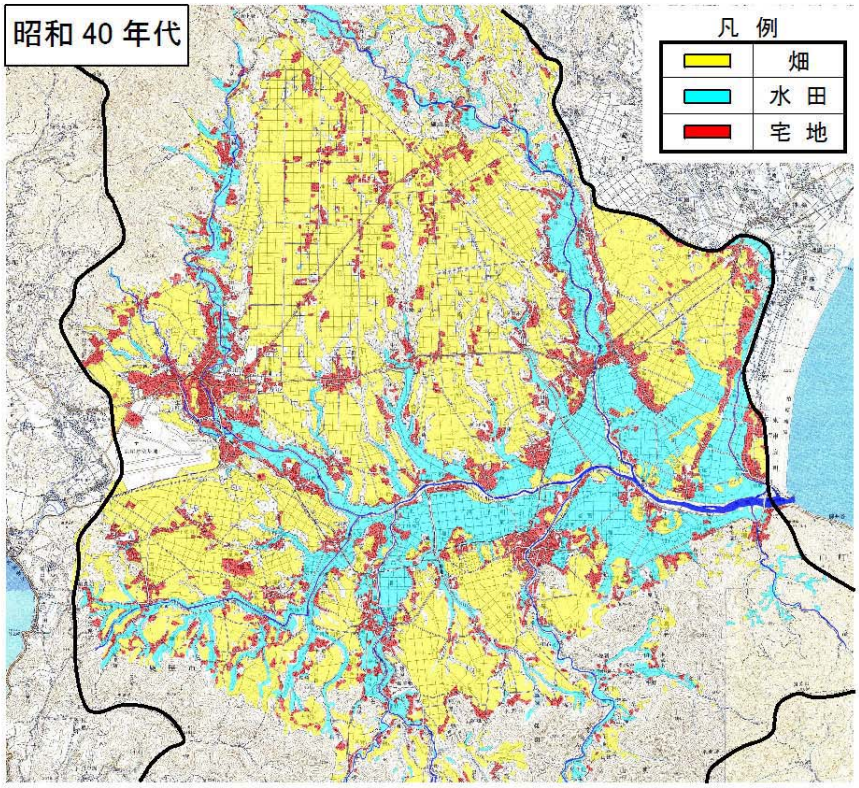
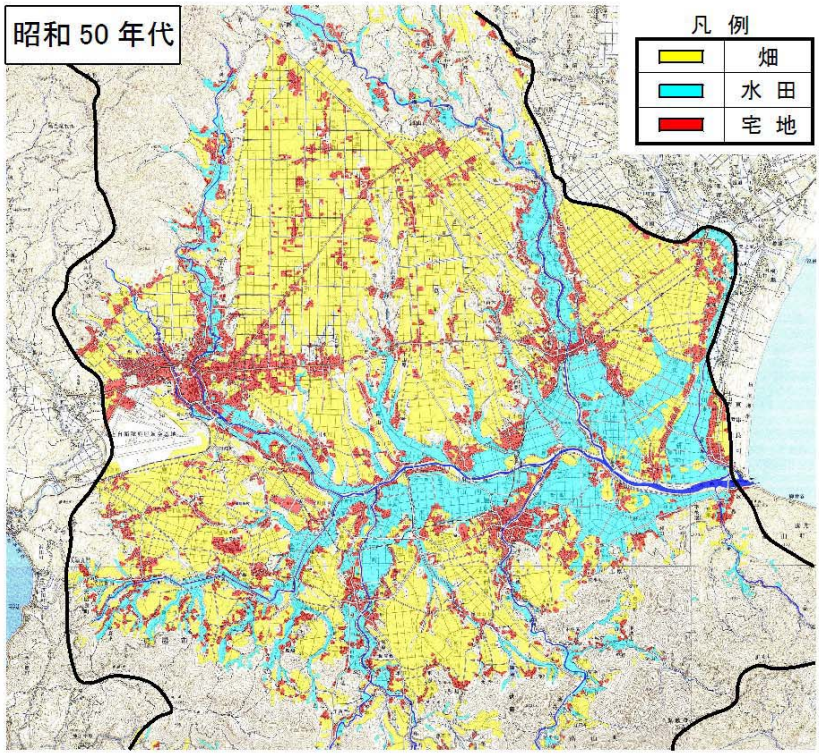


図 3 - 2　　土地利用の経年変化図(1)



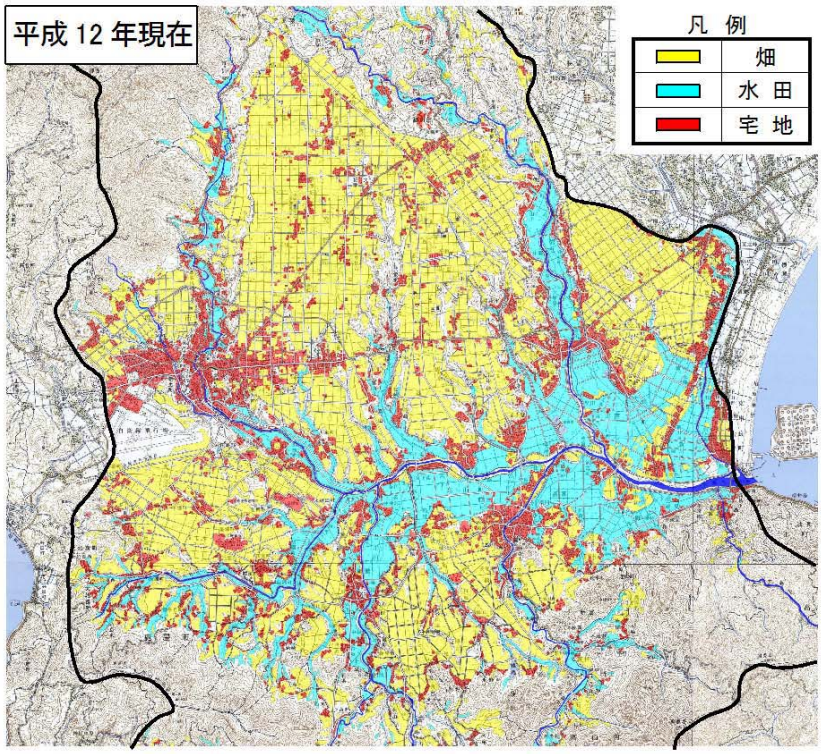


図 3 - 2　　土地利用の経年変化図(2)

３－２　人口

肝属川流域内の人口は約 11 万 6 千人（平成７年度調査）で、人口密度は約 230 人/km^2 である。流域に関係する市町（２市４町）の経年的人口の推移を見ると、鹿屋市は増加傾向にあり、他の市町では近年減少傾向となっている。

表 3 - 2　流域内及び市町村人口の推移

区分		昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	人口密度
新市町名	旧市町名	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人/km^2)
	流域内	126,015			114,035	119,274	120,329	114,754	115,500			
鹿屋市	鹿屋市	72,498	70,519	66,995	67,951	73,242	76,029	77,655	79,403	81,084	81,485	346.0
	吾平町	10,364	9,041	7,933	7,551	7,507	7,517	7,392	7,348	7,353	7,357	124.3
	輝北町	9,305	8,169	6,808	5,930	5,428	5,049	4,897	4,554	4,412	4,106	49.6
	串良町	17,495	15,629	14,179	13,358	13,828	14,058	13,817	13,754	13,613	13,272	206.7
垂水市	垂水市	32,721	29,175	25,952	24,422	24,179	23,504	22,264	20,933	20,107	18,926	124.2
東串良町	東串良町	11,161	10,282	8,977	8,419	8,440	8,254	8,119	7,868	7,530	7,122	271.9
肝付町	高山町	21,511	19,583	17,105	16,394	16,498	16,436	15,798	15,161	14,737	14,701	114.5
錦江町	大根占町	14,481	12,939	11,134	10,042	9,449	8,992	8,365	7,983	7,479	7,285	87.6
大崎町	大崎町	23,922	21,504	18,676	17,608	17,527	17,689	16,828	16,480	16,018	15,303	158.9

注）流域内人口は、「河川現況調査」、市町人口は国勢調査人口、H１７年は３月１日の人口、人口密度はH12年時点

※ 平成 18 年 1 月 1 日に合併

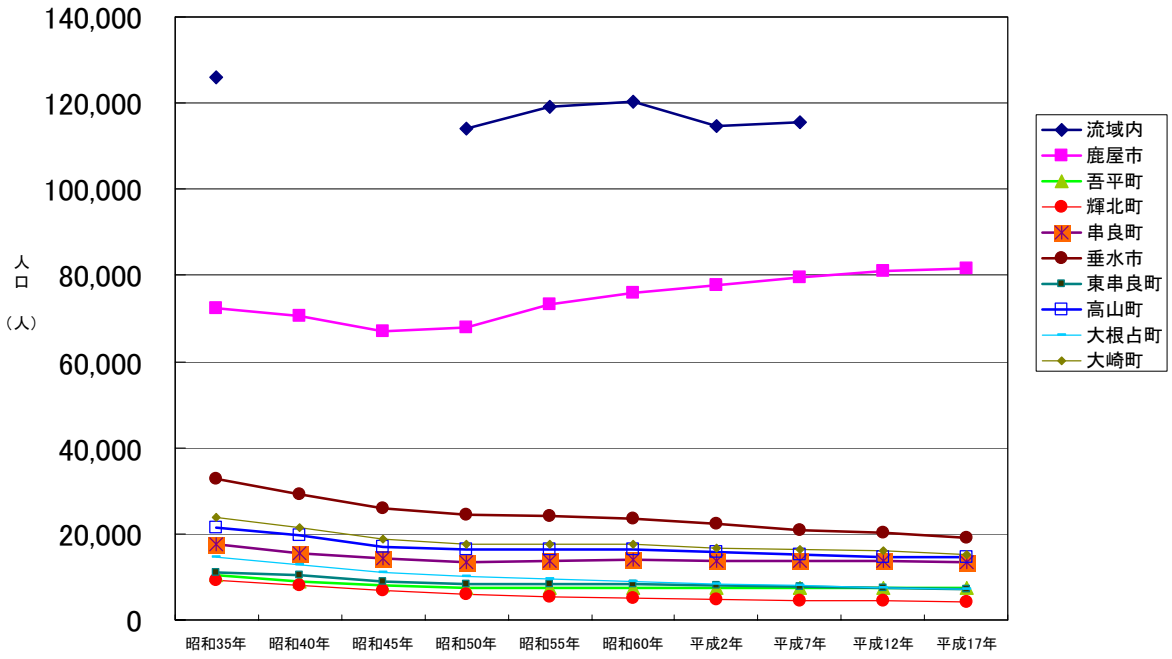


図 3 - 3　　流域内人口の推移図

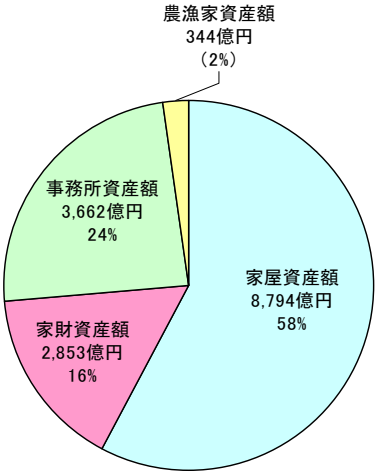
３－３ 産業経済

肝属川流域内の産業は、鹿屋市では第２次及び第３次産業が主体であるが、下流部一帯は県下有数の水田、畑作の盛んな穀倉地帯であり、流域内産業の大部分を農業が支えている。

産業別就労人口を見ると、鹿児島県及び全国平均と較べて一次産業の割合が大きく、うなぎの養殖、お茶、豊富な野菜、黒豚、肉牛・乳牛の畜産等の第一次産業が盛んである。

特に、畜産業のかごしま黒豚、鹿児島黒牛は、全国ブランドとしても人気があり、畜産業は、農業生産額の 70%を占めている。

流域内の総資産額は約 1 兆 5,000 億円であり、その 6 割弱を家屋資産が占めている。



平成 15 年度　河川現況調査より

注）　（　）書きは合計に示す割合

図 3 - 4　流域内資産額

シラスうなぎ漁

志布志湾の豊富な海産物

お　茶

串良町（東串良町）のピーマン等

自然農法のかごしま黒豚

高い評価の鹿児島黒牛

表３－４　　産業別就労人口

H16年度市町村別就労人口

市町村	合計（就労者数）	第一次産業		第二次産業		第三次産業	
		就労者数	割合(%)	就労者数	割合(%)	就労者数	割合(%)
鹿屋市	15,827	3,568	22.5	7,924	50.1	25,312	160
垂水市	3,873	1,884	48.6	2,455	63.4	4,473	115
輝北町	982	876	89.2	586	59.7	791	81
串良町	3,148	2,135	67.8	1,576	50.1	3,249	103
東串良町	1645	1,291	78.5	757	46.0	1,591	97
高山町	2,890	1,311	45.4	1,943	67.2	3,435	119
吾平町	1,613	792	49.1	1,151	71.4	1,691	105
大根占町	1,638	1,282	78.3	674	41.1	1,692	103
肝属川流域内	25,123	9,097	36.2	13,351	53.1	35,278	140

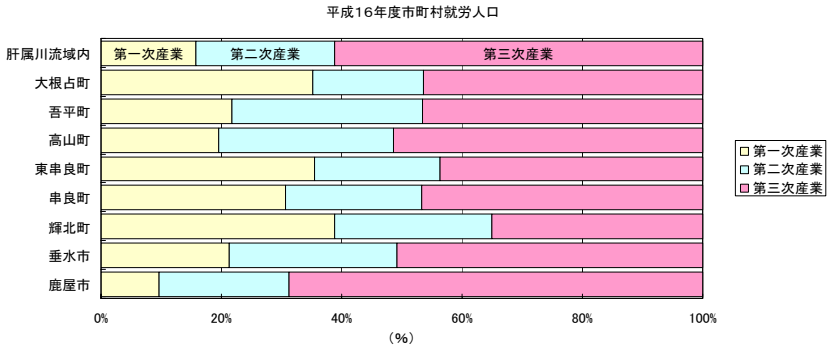


図３－５　産業別就労人口の割合

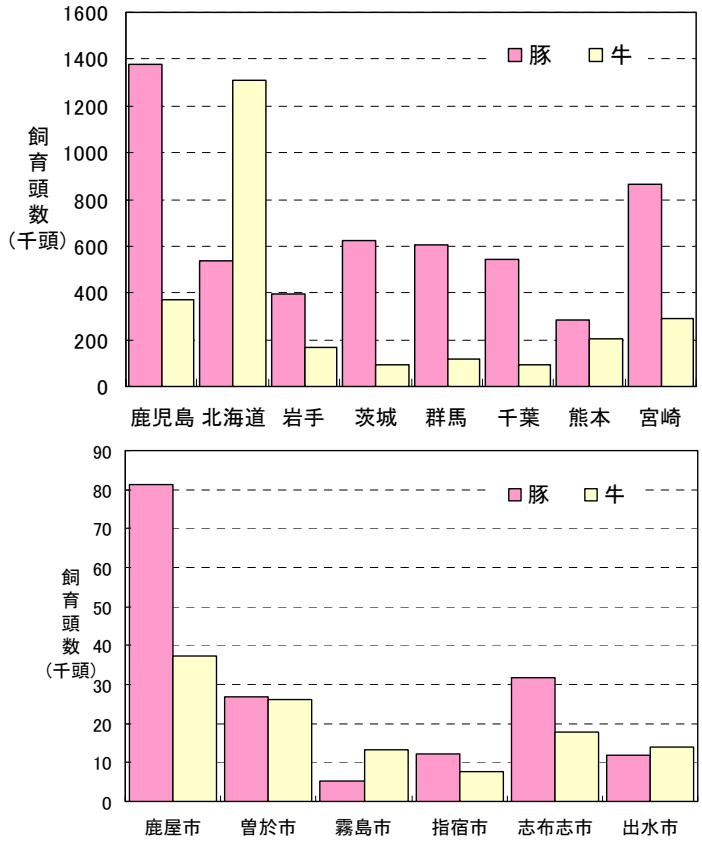


図３－６　　鹿屋市の牛・豚の飼育頭数状況

3－4 交　通

肝属川流域内の交通網は道路が主体である。国道は、宮崎市から国分市へ至る 220 号線が流域の中央部を横断し、佐多町から宮崎市に至る 269 号線が、鹿児島湾沿いから鹿屋市を通り流域北部を縦断し、鹿屋市から宮崎県野田町に至る 504 号線が、流域北部を縦断し旧大根占町から宮崎市に至る 448 号線が志布志湾沿いに肝属川の河口部を通過している。

その他、主要地方道として高隈串良線（県道 67 号）、鹿屋吾平佐多線（県道 68 号）、鹿屋高山串良線（県道 73 号）などが流域内の主要地域を結んでいる。

これからの道路整備として、地域内の交通ネットワークづくりを推進するとともに、広域的交流を促進し、有機的な連携を深めるために、東九州自動車道の整備・調査促進、地域高規格道路の都城志布志道路、大隅縦貫道の整備・調査推進など広域高速交通網の整備が図られている。

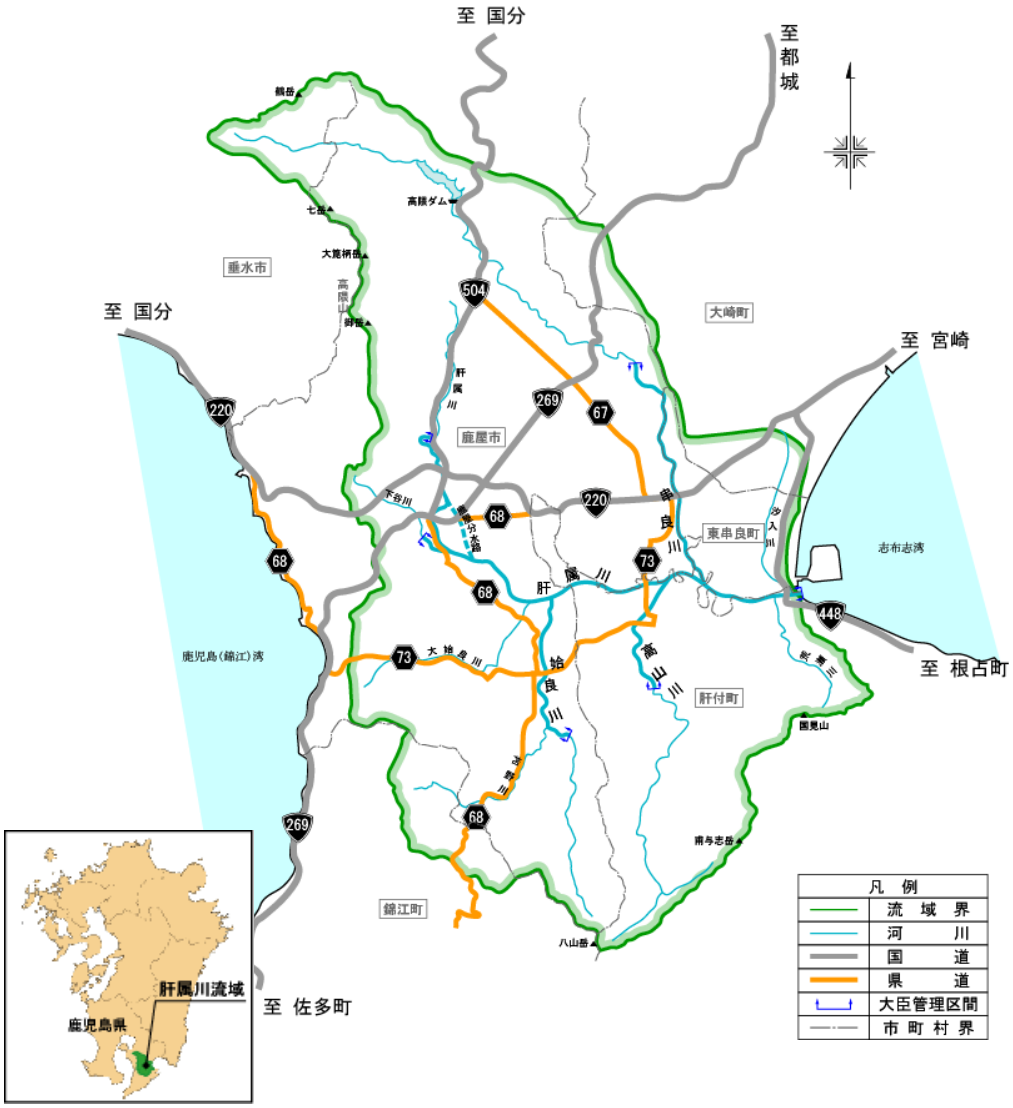


図 3 - 7　肝属川流域内の交通網図

3－5 将 来 構 想

肝属川流域は大隅半島の中央部に位置し、鹿屋市、垂水市、志布志湾沿岸部を中心に広域的な生活・産業関連機能の整備が進みつつあるものの、農山村地域においては過疎・高齢化が進行している。

このような状況に対し、生活環境の整備、地域産業の振興など定住条件の向上を図り、地域の活性化を図る必要がある。

鹿児島県の総合計画において、この地域に対して域内はもとより他地域との交流を促進する広域交通網の整備を図ると同時に、県下有数の畑作地帯、日本有数の畜産地帯が形成されており、今後更に農業基盤の整備を進めること、また、この地域特有の豊かな自然及び山陵・古墳に見られる多彩な歴史的資源を生かした地域づくりなど、総合的生活空間の整備を図ることが期待されている。

また、大隅地方は、地方拠点都市地域に指定されるとともに、半島振興法に基づき大隅地域半島振興計画が策定され、大隅地方拠点都市地域基本計画に基づき総合的な地域政策が立案されている。

図３－８　肝属川流域の高規格幹線道路網図